

すがなみ

しげる

菅波 茂

国際医療ボランティア「AMDA」理事長



国際的な人的ネットワークであることを、今回の大津波災害で改めて思い知らされた。

27日には、インドネシアとスリランカでそれぞれ支部のスタッフが現地入りして

こうした緊急支援で力量を発揮するには、私たちの経験から三つの要点をあげることができる。

第一はローカル・イニシアチブ（現地主導）。現地

第二は、前方展開や現地主導を基礎にした多国籍ネットワークだ。例えば、ス

リランカ北部やインドネシアのアチェは紛争地域で、よそ者が立ち

移民のスタッフを送り込めた。アチェでは、唯一無事だった軍病院の院長がイン

ドネシア支部長の教え子だった関係が生かされた。一度に大量の死者がでる事態は、20世紀は戦争がそ

岡山市内に本部を置く私たちの「AMDA（アジア医師連絡協議会）」はアジ

アやアフリカ、南米を中心に、まる20年活動を重ねてきたが、今回ほど広域かつ

大規模な災害は初めてだ。それでも発生翌日の12月

第一は前方展開。海外各地に日常の活動拠点を持ち、ふだんから現地での信

入るには微妙な問題があるが、AMDAはスリランカ北部にはカナダやニュージー

GO（非政府組織）だけではない。海外各地に進出している日系企業も前方展開

の好例だ。例えば被災地では遺体の処理や仮設住宅の

建設が急務だが、現地近くにいる日系ゼネコンなら、

救済を最小限に食い止めらるるか否かは、災害の発生から最初の2週間が勝負どころだ。そこで肝心なのは

現時点では10カ国計80人余のAMDAボランティアが

電話一本で動ける。プの精神が力になる。

災害時に日本から救援隊

は遺体の処理や仮設住宅の

建設が急務だが、現地近く

にいる日系ゼネコンなら、

建設が急務だが、現地近く

救援活動の公共政策化を

救済を最小限に食い止めらるるか否かは、災害の発生から最初の2週間が勝負どころだ。そこで肝心なのは

現時点では10カ国計80人余のAMDAボランティアが

電話一本で動ける。プの精神が力になる。

災害時に日本から救援隊

は遺体の処理や仮設住宅の

建設が急務だが、現地近く

にいる日系ゼネコンなら、

建設が急務だが、現地近く